

令和4年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）^(シ08)

研究組織 安永拓世、江村知子、吉田暁子、黒崎夏央、塩谷純、二神葉子、橘川英規、小野真由美、米沢玲、小山田智寛、田代裕一郎（以上、文化財情報資料部）

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を広く一般に公開する。

成果

- 2022（令和4）年11月8日（火）、広く一般から聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」を開催した。新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、令和3年度と同様に内部講師2名による講演を行った。講演テーマは次の通りである。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - 江村知子（文化財情報資料部長）「遊楽図のまなざし—徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に」
 - 吉田暁子（文化財情報資料部研究員）「岸田劉生の静物画—「見る」ことの主題化」
- 外部からの聴講者は新型コロナウイルス感染防止の観点から、定員を絞って抽選制としたが、定員の2倍近くの応募があり、50名の参加者を得た。
- 未発表の最新の研究成果を、新知見とともに公開することができたほか、高精細画像を活用した図様の解釈や、最新の光学調査に基づく研究成果は、時宜に合った講演テーマでもあり、参加者からのアンケート結果では、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて97%という好評な回答を得ることができた。



第56回オープンレクチャーの様子



第56回オープンレクチャー チラシ